

日本の観光政策・施策の課題

コメント

2002年2月18日
財団法人 日本交通公社
常務理事 原 重一

リュック・ベアル研究員のレポートとキーワード

- ・観光(事業)と地域経済開発
- ・観光政策の分権化
- ・観光政策の歴史
- ・日本の観光産業の状況
- ・広域の観光プロジェクト
- ・土地規制
- ・IT観光情報
- ・高コスト体制



広域の観光プロジェクト

レポートで取り上げられたところ

北海道

八ヶ岳地域

道東圏

釧根地域

* * * 高嶺町

阿寒町

* * 清里

阿寒温泉

* キープ協会

アイヌシモリ

* ハケ岳花の森公園

十和田湖

* * * 高根町

津別町

1 . アウトバウンド 1,700万人
インバウンド 470万人
このアンバランスがもたらす課題

<産業空洞化と観光事業の役割>

2 . 地域振興と観光事業の役割

<観光産業と地域経済波及効果>

3. 美しく魅力ある国土づくり・地域づくりと 観光事業の役割

<都市再生>

<既存観光地の活性化>

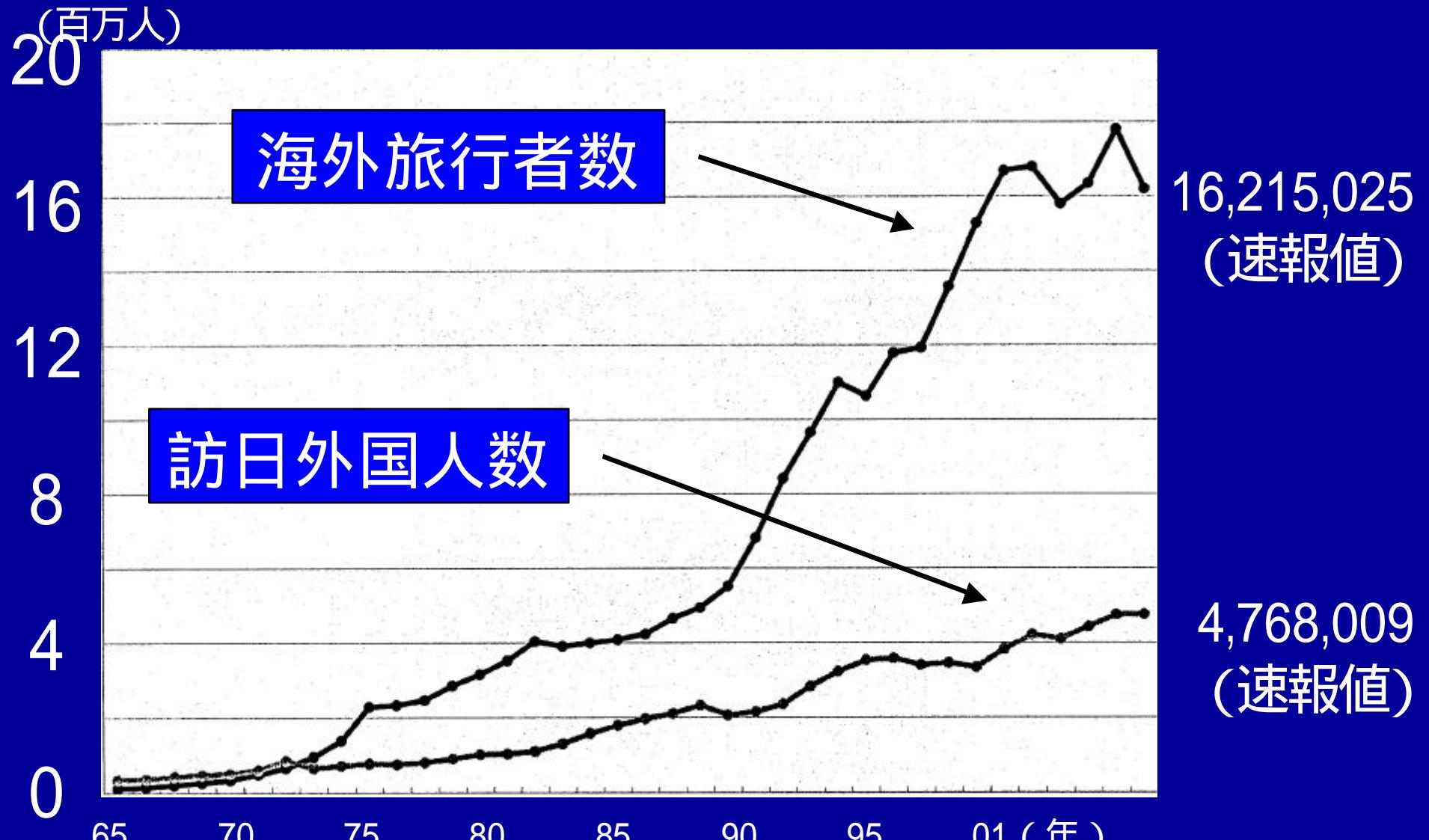
<美しく魅力ある農山村地域>

4. 国民の自由時間活動 観光活動の課題

<構造改革と意識改革>

<日本人男性の意識改革>

インバウンドとアウトバウンドの不均衡



(C) Jyuichi HARA, ITPS 2002

全国総合開発計画における観光関連政策の変遷

	キーワード	主要施策
全 総	ソーシャル ツーリズム 国民宿舎	観光基本法 少年自然の家 国設キャンプ場
新 全 総	レジャー 大規模開発	国営公園 長距離自然遊歩道 青少年旅行村 大規模レクリエーション施設 レクリエーション都市 大規模年金保護基地

	キーワード	主要施策
三 全 総	地方の時代	国際観光文化都市 中規模観光 レクリエーション地区
四 全 総	リゾート 交流 コンベンション	総合保護地域整備法 コンベンション都市
新 し い 全 総	庭園の島 多自然居住地域 地域連携軸 広域国際交流圏	国際観光の振興 ハッピーマンデー 観光産業振興フォーラム

観光事業のプロセス

I 構想

- ・どこに整備するか(適地性・市場性)
- ・地域振興策
(“陳情”に始まり“指定・承認”で終わる!)

II 調査
・
計画

- ・プラン(計画案)とプランニング(案づくり)
- ・運営・経営主体とフィズィビリスタディ

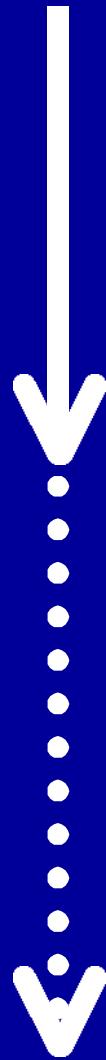
III 開発
・
建設

- ・開発のしきみ 主体 役割分担
- ・開発資金(プロジェクトファイナンス)
- ・観光基盤整備
- ・開発手法



観光事業のプロセス

IV 運営
・
経営



- ・運営と経営の違い
- ・経営(商法・金融・税制)
(事業は人なり “プロ”)
(採算性 市場性)
- ・広告宣伝
- ・旅行商品
- ・IT 戦略
- ・広域連携
- ・役割分担



道東圏・釧根地域



(C) Jyuichi HARA, ITPS 2002

北海道東・釧根地域

広域行政圏
(住民)

集 落
：
村 (26)
町 (153)
市 (34)

広域行政圏
(支庁 14)



広域観光圏
(観光客・交流人口)



観光資源(44)
(観光対象)

観光地
観光地域



広域観光圏
(一日行動圏)
観光コース
観光ルート

北海道の高速道路予定図



(C) Jyuichi HARA, ITPS 2002

観光の地域経済への波及効果 推計結果

観光消費額 646億円

直接効果

観光消費額(域内分) 555億円 観光産業雇用5,500万人
(うち付加価値誘発額 294億円)

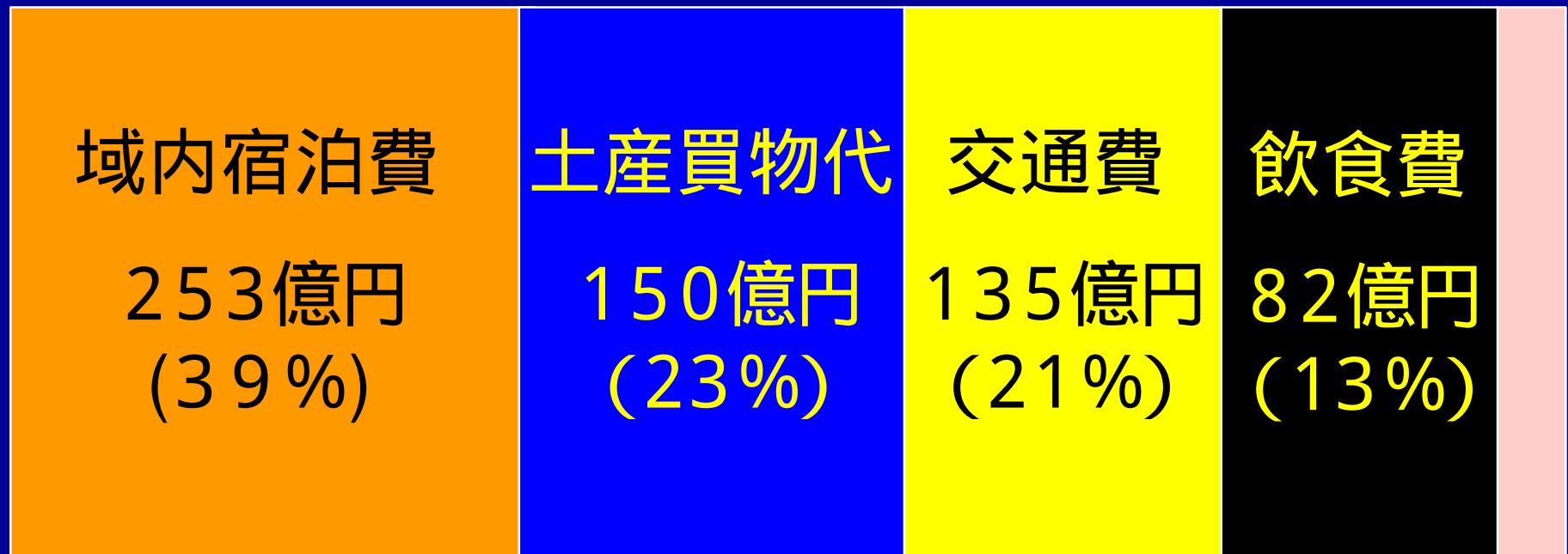
波及効果

生産波及効果859億円 雇用誘発効果7,700人
(うち付加価値誘発額 474億円)



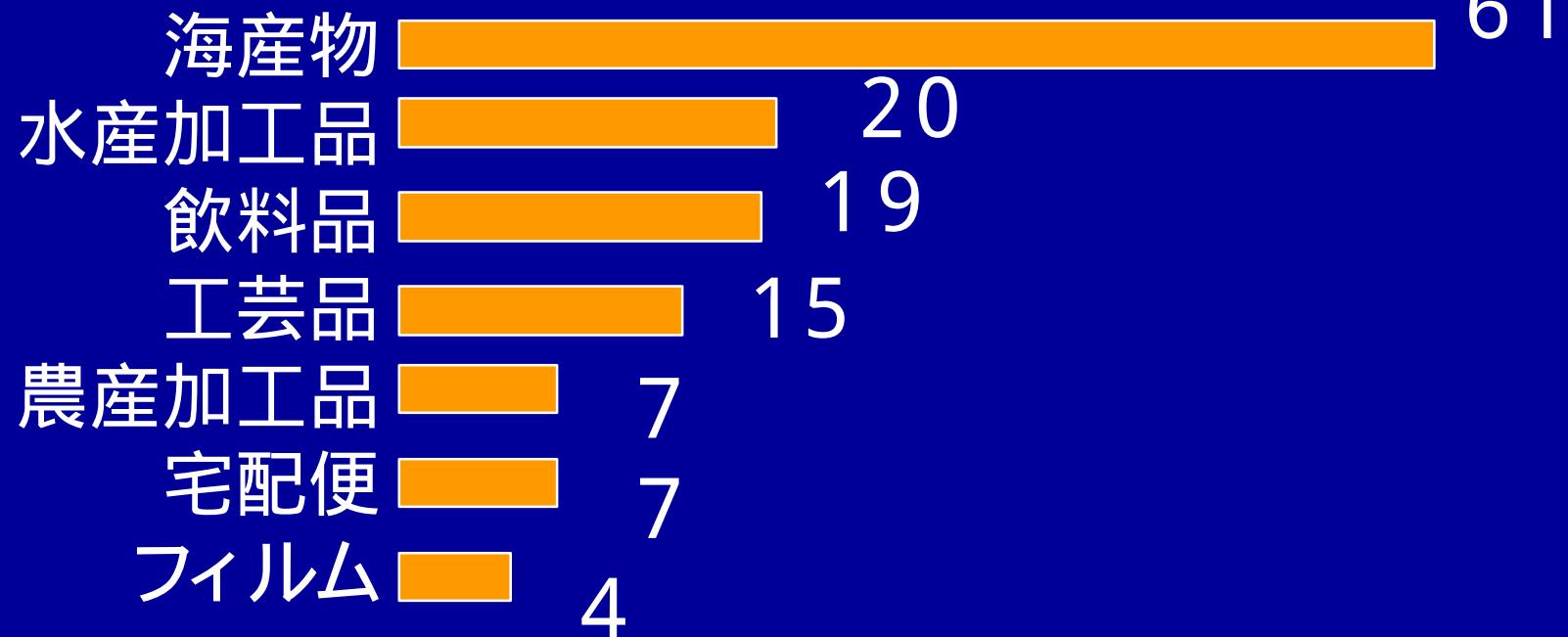
費目別の観光消費額

年間全体(単価49,175円)

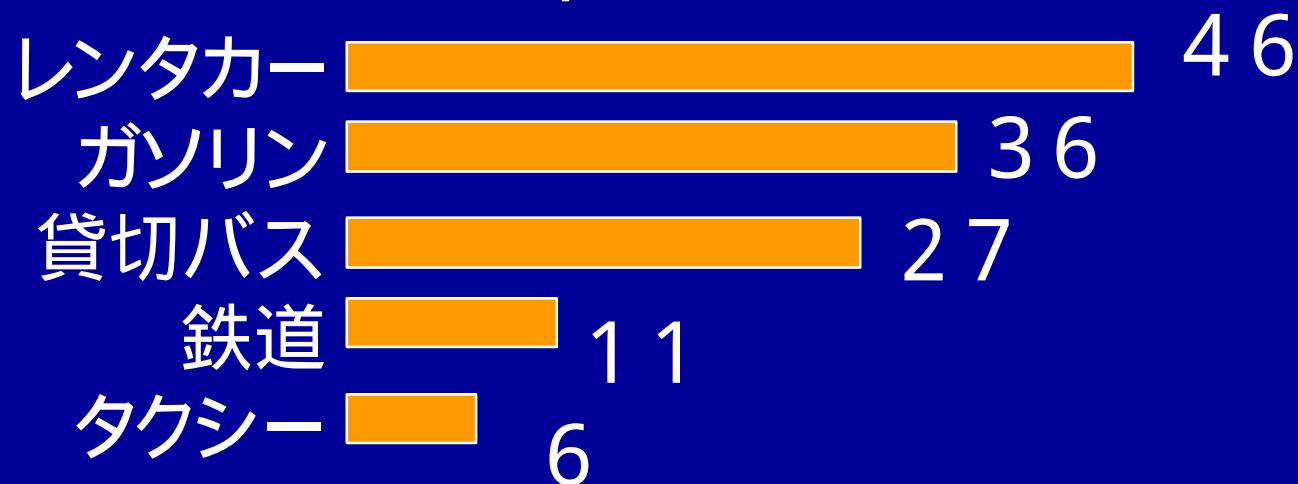


土産・買物代

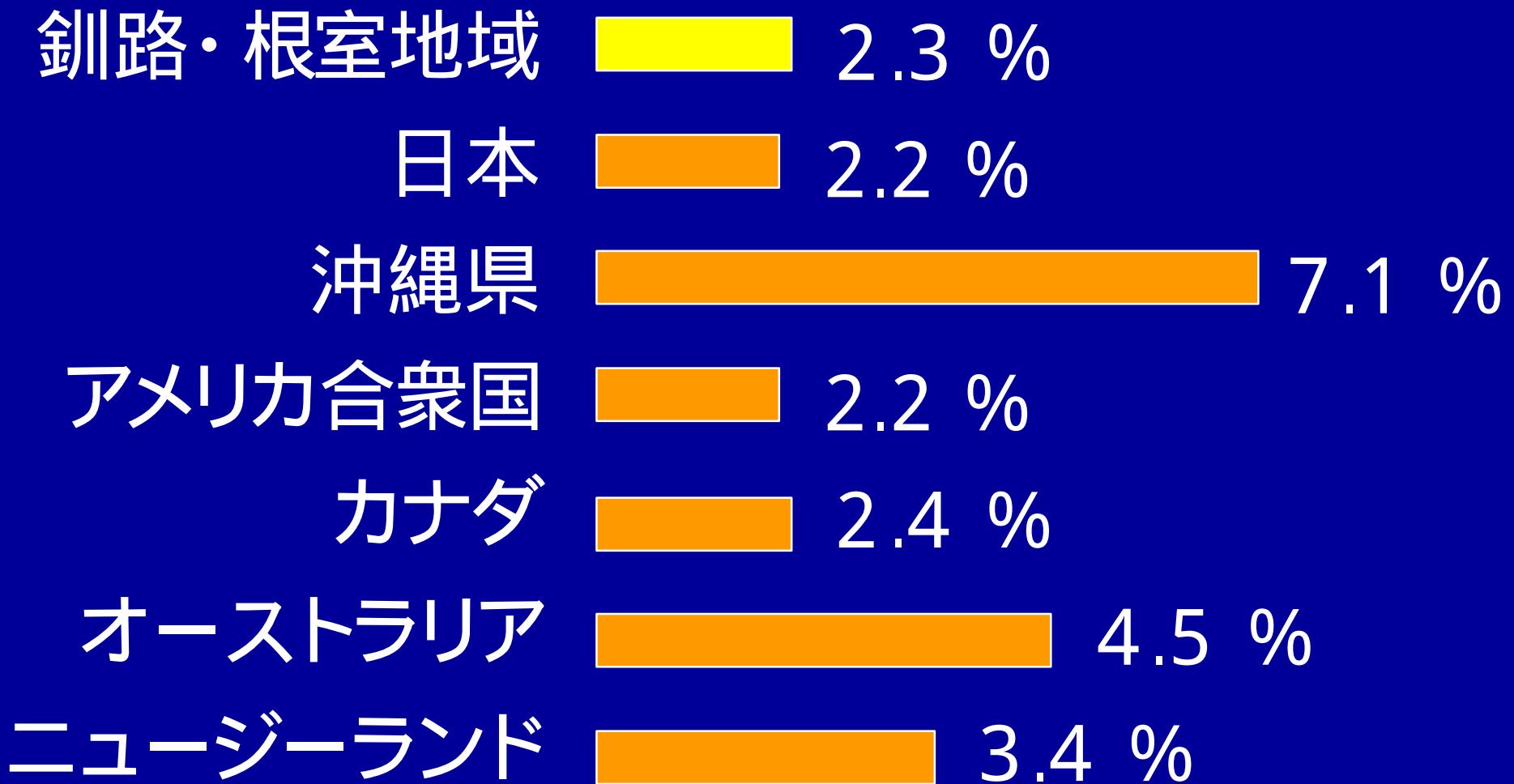
費目別の観光消費額(細目) (億円)



交通費



国内・海外各との 観光関連産業との貢献度(TGDP)比較



日本の観光政策・施策の課題

コメント

2002年2月18日
財団法人 日本交通公社
常務理事 原 重一